

情熱と忍耐力を持って職場に臨もう

晴れの卒業式を挙げるに当たり、ご来賓並びに保証人の皆さまには、多数、ご参加いただきまして、ありがとうございます。卒業生の皆さまへ、ご卒業、おめでとうございます。教職員を代表しまして、心からお祝い申し上げます。

皆さんの在学中には、東日本大震災や台風などの自然災害が多発して、現在も復興の途上であり、多くの仲間が募金や支援活動に関わりました。他方、学園生活においては、実習や研究、また、国家試験の勉強や就職活動に努力されたり、クラブ活動やボランティア活動に精出されたりして、一人ひとりが充実した、満足のいく生活を送られました。ただ、心残りは、少数ですが、就職が決まっていなかったり、少人数で、これから就職活動を中心に探予定にしておりますので、ご相談にお出下さい。

さて、現在、社会は、不況の真只中にあります。皆さんがお勤めになる会社や施設も例外ではなく、厳しい状況下にあります。このような環境の下で生き抜き、成功するには、それ相応の堅実な考え方をもち、自覚して行動することが求められます。

そこで、去年の十月に亡くなったアメリカのコンピュータ・アッパルス社（1955～2011）の生活の取り組み方がたいへん参考になりますので、紹介したいと思います。ノートサイズの新機種「マッキントッシュ」は、当初、六カ月間で作り上げる計画でしたが、予想もなかった難関に次つぎに突き当たって、完成するまでに四年間を費やしました。その間に同業者から



福山平成大学
学 報

第55号



miyuki letter

みゆきレター

自分たちの世代が日本を変えていきたい

本日の佳き日に福山平成大学平成23年度卒業生のための式典が盛大に挙行されることになり心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さん、本当によく頑張りましたね。本日出席の保護者の皆さん、そして、皆さんを大切に育て、指導してくださった教職員の皆さんも、ご卒業を心から祝福しております。とりわけ保護者の皆さんには、大切な宝とものであるお子様が立派な成人となり、それぞれ自らが教育目標を達成したわけですからその努力を高く評価し、その前途を一層強く見守ってほしいと思います。

さて、皆さんの在学中には、リーマンショックや政変などいろいろありましたが、とりわけ大きな事件としては、我が国の歴史上開闢以来の大惨事となった東日本大震災がありました。地震、津波、原子力発電の爆発に伴う放射能汚染といった三つの惨事が同時に発生し、国内は勿論国際的にも大きな反響を呼び起こしました。しかも、その復興、復興に当たっては、日本人の思いやり、温かい心、強い絆が示され、全国からボランティアが多数参加し、これに協力しました。福山平成大学の学生もいち早く、東北の現地を訪ね、ボランティア活動で大変熱心に行い、その活動が高く評価され、今でも感謝の言葉やお礼の手紙がたくさん寄せられております。さすが福山平成大学の学生だと心から感謝と敬意を表するものであります。また、これ



らの活動については、国際的にも高く評価され、日本人の心、日本人の力強さ、温かさが見直されています。もともと日本人は世界に誇る木造建築文化として名高い法隆寺を建立した聖徳太子がAD604年に、「十七条の憲法」を制定し、その第一条において「和をもって貴とせしめ、さからうことをなすを宗となせ」とし、「和を貴び、謙虚で争いを嫌う精神をもった勤勉で協調性のある優れた民族」になることを強く念願しました。今回の東日本大震災の復興、復興では、その心が改めて示されたものと深い感銘を覚えるものであります。

いま世間では、若い人たちの考えや行動についていろいろ批判や意見をよせていますが、今年1月10日の成人の日に発表された成人に対する「インターネット調査」によれば、新成人の80%が「自分たちの世代が日本を変えていきたい」と、強い意欲と責任感をもっていることを示しています。調査したインターネット会社の分析によりますと、「不景気による就職難や東日本大震災をきっかけに、若者が真面目に社会と向き合っていく」と真剣に考えているものではないかと、高くその行動を称賛しています。さらに具体的な意見として、「世界にアピールできる立派な国にしたい」、「教育や医療に力を入れるべきだ」、「個々が努力して社会貢献すれば、日本は必ず変わる」と、その意気込みを示しています。

一方、政治や経済については、「日本の未来は暗い」となっている。答が80%となっており、その理由として、「リーダーシップを取るべき人が将来のビジョンを提示していない」と指摘しています。確かに今の政治情勢などみまると、若い人たちが失望するのも無理はないと率直に思いますが、「自分たちの世代が日本を変えたい」と強い意欲を示

していることには、大いに期待できるところであり、本日の卒業生にもそのことが言えるものと考えています。

卒業生の皆さんは、これから就職に、進学に、あるいは家庭にと、道は分かれると思いますが、圧倒的に多いのが就職だと思えます。経団連が会員企業に対して行ったアンケート調査「経団連の求める大学生」により、その第1位は、「論理的思考力や問題解決能力を身に付けた者」が76.5%、第2位は、「チームを組んで特定の課題に取り組むことができる者」が45.5%、第3位は、「専門分野の知識を身に付けている者」が43.8%となっています。このように、企業の求める人間像がはっきりしてきています。いままで大学で学んだ教育の上にたつて、さらにこれらの企業の求める人間像に思いをいたし、企業は勿論、国家、社会が求める有為な人材となり、広く社会から尊敬され、信頼される人間に成長してほしいと思います。

最後に、14世紀に親阿弥、世阿弥という不世出の芸術家親子により、世界に誇る伝統文化「能楽」が完成されました。その花伝書の一つに「花鏡」という教本があります。その中に「初心忘るべからず」として、「是非初心」、「日月初心」、「老後初心」の3つの初心をあげ、日常は勿論、生涯にわたって初心を大切にすることよう強調しています。

皆さんも大学に入った時、そして今日の卒業式に当たって考えていること、思っていることを生涯忘れず大切に守り、人間として立派な社会人になるよう祈念し、お祝いの言葉といたします。

平成24年3月22日

福山平成大学

学長 田口 則良

則良

平成24年3月22日

学校法人 福山大学

理事長 清水 厚貴



信念をもって一歩一歩前進

経営学部長 坪井 始



卒業おめでとうございます。経営学科のみなさんは、学科名称が経営情報学科から経営学科に変更されてからの記念すべき第一回目の卒業生です。

昨年の三月には、東北に大地震が起きて大津波が押し寄せ、そして福島原子力発電所の事故が起きました。天災とそれに伴った人災とも言ふべき災害で、遅々とした復興のニュースが報告されています。私たちは何が起こってもそれに対処できるように準備しておかなければならないことを思い知らされました。また、天災は人間の力ではどうしようもできないことですが、人間の力を信じ、絆という言葉を噛みしめる機会でもありました。

卒業生のみなさんが入学してから四年間、リーマンショックをはじめ昨年の災害のように様々な出来事があり、社会の情勢も随分変わりました。非日常的なことのようには思えませんが、よく観察してみれば、それによって私の生活も少なからず影響を受けています。さらに、社会に出て仕事をもてば、やはり影響を受けています。このように、社会に出ると様々な変化への対応を迫られます。

今正に、みなさんは社会人としての一歩を踏み出そうとしています。それは、家族や大学から守られた学生という立場から、自ら道を切り開いて社会の一員として生きていくための第一歩です。また、これは人生の中で大きな節目のときでもあります。就職するということは、社会の一員となることです。いままで置かれていた環境が大きく変わり、それに対応する必要があります。これは、自分自身を見つめ直すよい機会、学生時代に築いてきたことを生かし、自分を再認識して、自信をもって新しい一歩を踏み出していただきたいと思います。

みなさんの歩く道は、平坦な道だけではないと思います。険しい坂道があり、大きな壁が立ちはだかるかもしれません。大学で学んだことを基礎にして、常に新しい知識を吸収し、的確な判断力をもって、そのときの課題に対応できるように精進していただきたいと思います。そして、目標に向かって一歩一歩、ときには半歩しか進めなくても自分自身のやり方で自信をもって前進してください。みなさんの新しい人生の門出に、幸多いことをお祈りいたします。

卒業を祝す

社会の弱者の味方になろう

福祉健康学部長 大成 浄志



福祉健康学部の卒業生諸君、御卒業おめでとうございます。保証人の皆様も安堵されたことと心から御慶びを申し上げます。

さて、諸君は大学生活の4年間、君たち福祉健康学部の学生は、社会福祉学科や子ども学科では、子どもや、高齢者をはじめ社会の弱者といわれる人々の幸せを追求する学問を学び、健康スポーツ学科はスポーツや教育を通して国民の健康維持増進に寄与する学問を学びました。さらにクラブ活動に、ボランティア活動にも精進してこられ、そのなかできつと何かをつかんだことでしょう。その答えが就職にも活かされたら確信します。

これから旅立つ社会とは厳しいものであり、大学生のときのような甘えは決して許されないことを肝に銘じてください。そして、折角就職した職場を簡単には辞めないで下さい、転職するときは今よりはもっと良い職場を得てからにしてください。

昨年は未曾有の大災害に見舞われ、3月ですでは1年目を迎えるようになっていますが、復興はこれからです。また、皆さんの在学中に政権の交代もありましたが、政治の世界は渾沌とし、経済面では相変わらず不況の最中です。まだまだ日本と言う国は不安定な状態ですが、卒業生諸君のこれからの長い人生において日本経済は必ず浮かび上がり、また沈むこともあるでしょう、そして社会の仕組みも、個人の価値観も益々多様化していくでしょう。どうぞ社会との強い繋がりを持ち、弱者の味方になるという強い思いを胸に秘めて、実社会に旅立たれることを期待しています。

輝かしい二期生の卒業と門出を祝して

看護学部長 橋本 和子



平成19年4月に開設された看護学部は、二期生には特別な思い入れがありました。福山市に初の4年制大学の看護学部が地域のご協力のもとに設置され、学生の皆様方が入学したその瞬間から、未来の看護プロフェッショナルを育成することができると喜びを感じました。と同時に、看護学という学問を修得し看護士号を取得して卒業し、社会に貢献できる人材を育成できるからです。看護は専門職であり、独自性と主体性をキーワードに持つ職業であり、人々の健康に関わる専門職として社会から大きな期待が寄せられています。特に皆様は、学外実習等での鍛錬により、凛とした顔、態度は見事にプロとしての方向に成長しました。さすが二期生、それを感じた私達教員の喜びも一入であります。きつと看護専門職としての理念や使命感を持ち人々に安心で安全な看護を提供できるよう厳しく自らを律し、日々研鑽していくことでしょう。希望する就職先や進学先も全員が決まりました。これからは、地域の皆様や看護界の大きな懐に飛び込み拍手での歓迎を受け入れながら、明るく楽しく生甲斐をもって過ごしてください。

福山平成大学看護学部で学んだ学生の皆様は、一生の間であり、宝です。人生には思いがけない出来事や困難に出会うことがあります。その時は同期生に相談し、お互いに助け合ってください。大学で学んだ楽しい4年間のことを忘れることなく、みんなの顔を思い出しながら目標に向かって進みましょう。看護職は組織にとって社会的財産であり貴重な存在であると言われるように何事にもあきらめないで、折れない心で頑張ってください。前途のご多幸とご活躍をお祈りいたします。



大学生生活の思い出

経営学部
経営学科 平尾 汐里



私は、情報系の分野が学べるという理由で経営学科に入学しました。
大学入学後、学友会執行部・御幸祭運営委員会に入り、一・二・三次には広報を担当し、三次には御幸祭運営委員会の委員長を務めました。私が三年の時には部員の人数が激減しており、御幸祭の企画・運営・準備などを行うには、まず部員募集から始めなければなりませんでしたが、新入部員を募り、少人数ながら集まった部員と共に準備を前倒しにするなど、御幸祭成功を目標に計画・実行していきます、色々大変もありましたが、部員全員の努力と多くの人の助けを借りて御幸祭は無事成功をおさめることができました。私は委員長を経験し、人をまとめることの大変さを知り、諦めずに行動することの大切さを学びました。
また、勉強面では必要な講義を受けるだけでなく資格取得にも挑戦し、情報分野で必要となるITパスポートや、会計の基本となる日商簿記・コンピュータ会計等の資格を取得しました。就職活動に入ると、資格を取ったこと、委員長の経験によって、就職を有利に進めることができました。
私はこの四年間を通して、色々なことにチャレンジすることの面白さやそれを続けていくことの大切さを学びました。一筋縄ではないことも多くありましたが、今では大変貴重な機会をいただき、経験できたことを嬉しく思っています。経営・情報分野を勉強することができたこと、また何事にも親身に接してくださった先生方、大学生活を共にした友人や先輩後輩に心から感謝したいと思います。私は福山平成大学を卒業しますが、大学生活で学んだことを活かし、社会人としての新たなスタートを切りたいと思います。本当に私にとって充実した四年間でした。ありがとうございました。

大学生生活の思い出

福祉健康学部
福祉学科 町田 慧



今大学生生活振り返ると、サークル活動や介護・社会福祉の実習・学校の行事等でも充実した4年間だったと思います。
その中で特に印象に残っているのは介護・社会福祉の実習とサークル活動です。
まず、実習は介護福祉士になるための実習と社会福祉士の受験資格を取得するための実習の2種類の実習を行いました。どちらも高齢者分野で実習しましたが、実習の初めの頃は、何をすれば良いのか分からず困りました。しかし、回数を進めていくと自分にやりたことが見つかり、積極的に行動し、職員の方に質問できるようになりました。社会福祉士の実習では介護実習とは違い、施設の入退所の契約場面に立ち合わせて頂く等貴重な経験もしました。
サークル活動はソフトテニス同好会とシグマソサエティといったボランティアサークルで4年間活動しました。
ソフトテニス同好会では、夜遅くまでサークルのメンバーとテニスに励み、長期休暇の時には合宿もしました。また、大学祭で模擬店を出店し、大学祭を盛り上げました。
シグマソサエティでは、幼稚園や地域の行事に参加し、バルーンアートや運営のお手伝い、イベント企画をしました。このサークルを通じてバルーンアートを学び、自分の特技にすることができました。ボランティア活動以外でも介護実習の時にレクリエーションとしてバルーンアートを作り、利用者の方や職員の方に喜んでもらうことができた。
先生方や実習や授業でお互いを支えあった友人たち、サークルや学科内で自分を慕ってくれる後輩達、またこれまで自分を大学まで進学させてくれた両親に心から感謝し、これから社会に出て恩返しをしたいと思っています。沢山の人の役に立てるように、感謝の気持ちと挑戦の気持ちを忘れずに社会人として頑張っていきたいと思っています。

大学生生活の思い出

福祉健康学部
こども学科 高橋 理恵



幼い頃からの「保育士」という夢を叶えるために福山平成大学に入学してから、あつという間に4年が過ぎ、卒業を迎えました。この4年間たくさんさんのことを吸収したいと思い、学業だけでなく、サークル活動やボランティア、アルバイトなど様々なことに挑戦してきました。私が大学生活のなかで最も心に残っているのは、実習です。2・3・4年次は幼稚園に、3年次は保育園と福祉施設に行きました。実際に子どもと接し、保育に関わることで、自分の足りない点や、これからさらに伸ばしていくべき点など多くのことを学びました。そして、苦しい時も、同じ夢を追いかけて、この貴重な時間を共有している仲間と支え、励まし合いながら乗り越えてきました。
また、私は御幸祭運営委員会に所属し、大学祭の企画・運営に関わってきました。一からステージを立てる、看板やパンフレットをみんなで意見を出し合いながら完成させるなど、他のサークルではできないようなことも体験できました。大学祭を運営するのは、楽しいことばかりではありませんが、仲間と協力し大学祭を作り上げた経験は、私を大きく成長させてくれたように思います。
また、ボランティアやアルバイトにも積極的に取り組む、本当に充実した4年間でした。色々な経験を、本当に多くの大切な時間でした。このように様々な経験や学び、思い出をつくることができたのは、あたたかく見守り、支えてくれた家族や丁寧な指導してくださった先生方など出会う、たすけての方々のおかげです。心から感謝し、この経験をこれから的人生へ繋げられるように努力し続けていきたいです。

4年間を振り返って

福祉健康学部
健康スポーツ学科 小坂 奈央美



4年間の大学生活が終わりを迎え、この4年間を振り返ると、長いようで短い時間でした。中学・高校とバスケットボール部に所属し、大学でもバスケの練習の毎日だったように感じます。
1・2年生の時は実家から約1時間半かけて通い家に帰るのは22時で、授業部活通学の繰り返しでした。3年生になると一人暮らしをさせてもらえるようになり、夜遅くまで友達と遊んだり、バイトをしたり、大学生ならではの楽しみ方を知ることができました。自ら炊事や洗濯・掃除をする中で、夜遅く帰ってもご飯が用意されていて、食べる時には一緒に座ってくれ、私のことを気にかけてくれる親のありがたみを感じることが出来ました。
夏の野外活動では人生で初めて海で泳ぎました。遠泳では周りの人と声を掛け合いながら2時間かけて約4キロ泳ぎきった時は大きな達成感でいっぱいでした。
また、バスケットにおいては、練習メニューを自分たちで考えたり、挫折やチームメイトとのぶつかり合いを経験しました。それらを経験する中で、考え行動することの必要性や向上心を身に付けることが出来たと思います。1年生の頃はサークルでしたが年を重ねるごとに、部活動と認められ、広島県2位、中国地区5位という成績を修めることが出来た。個人でも得点王・リバウンド王・優秀選手賞等頂き、最高の形で終わることができたと思います。仲間や友達・保護者や先生方、支え応援して下さった全ての人に本当に感謝しています。ありがとうございました。
この春からいよいよ社会人になります。初めてのことはありますが、この大学生活で得たことや人とのつながりをもっと大切にしていきたいです。

学生生活の思い出

看護学部
看護学科 西 郁美



私は4年前、看護師になる夢を叶えるため、福山平成大学に入学しました。勉強だけではなく、スポーツなどの息抜きも大切だと思い、私はバドミントンサークルに所属していました。そのお陰で他の学科の学生とも関わる事ができました。
看護学部の4年間で最も印象に残っているのは、なんと言っても看護実習です。
1年次の実習では、初めて病院で実際の患者さんと関わらせて頂き、緊張の連続でしたが、授業だけでは学べない事を経験する事が出来ました。そして2・3・4年次と実習を重ねるにつれ、看護師になりたいという思いがより一層強くなりました。実習では、毎日記録が大変でしたが、どうしたら患者さんによりよい看護が提供できるか、入院中で病院という普段と違う環境の中で、患者さんらしい生活を送れるのかを考えながら、看護計画を立案し実施していき、また、考えながら計画も勉強が十分で実施出来なかったり、壁にぶち当たったり、しんどい時もありましたが、患者さんからの「ありがとう」という言葉や、患者さんの笑顔を見ることで、頑張る事が出来た。また、実習はグループで行動するのですが、しんどい時は助け合ったり、また、分からない事は一緒に調べたりと毎日協力し合い、素敵な仲間と共に学ぶ事が出来ました。
看護師国家試験に向けての受験勉強は、計画を立てながら毎日勉強してきました。当日までとても不安な日々でしたが、友達と励まし合いながら本番まで頑張る事が出来ました。
看護学科の先生方も、国家試験対策など私達のために親身になって下さいました。看護師になりたいという同じ目標を持った仲間がいたことで、辛いことも乗り越えることができた、毎日楽しく、充実した4年間を過ごす事が出来ました。この4年間の大学生活で学んだことや、成長できたことを、これからに繋げていきたいです。

平成23年度卒業生数

学 部	学 科	卒業生数
経 営 学 部	経 営 情 報 学 科	3 名
	経 営 学 科	3 9 名
福 祉 健 康 学 部	福 祉 学 科	3 1 名
	こ ど も 学 科	3 6 名
	健 康 ス ポ ー ツ 科 学 科	8 0 名
看 護 学 部	看 護 学 科	6 6 名
計		2 5 5 名

研 究 科	専 攻	卒業生数
経 営 学 研 究 科	経 営 情 報 学 専 攻	5 名
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 研 究 科	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 専 攻	2 名
看 護 学 研 究 科	看 護 学 専 攻	6 名
計		1 3 名

専 攻 科	卒業生数
助 産 学 専 攻 科	9 名

合 計	2 7 7 名
-----	---------

平成23年度 学生表彰者一覧

このたび、「学生表彰」として学長賞ならびに奨励賞が第15回学位記授与式において表彰されました。

学長賞は、「学業部門」「スポーツ部門」「文化部門」「社会活動部門」のいずれかにおいて、優れた成績または活動をした学生に授与されるもので、今年度は、9名が表彰されました。学長賞に次ぐ成績等を修めた学生に授与される奨励賞として6名が表彰されました。

なお、次の学生と団体に、田口学長から表彰状と副賞が手渡されました。

学 長 賞

経営学科	加 藤 忠 雅
経営学科	平 尾 汐 里
福祉学科	坂 本 拓 也
福祉学科	高 橋 新 太
こども学科	篠 原 加 緒 里
健康スポーツ科学科	久 保 田 裕 貴
健康スポーツ科学科	長 尾 亮 佑
健康スポーツ科学科	ベゼラ ジュニオル
看護学科	畑 野 裕 子

奨 励 賞

福祉学科	池 田 圭 苗
福祉学科	鍛 治 川 亮
こども学科	藤 井 康 平
看護学科	池 田 彩 加
看護学科	橘 高 由 貴
看護学科	廣 康 智 己

御幸五訓

一、真理を求め、道理の実践を志向する。
 二、豊かな品性と魅力ある個性を伸ばす。
 三、不屈の魂を養い、紐帯性を培う。
 四、生命を尊重し、自然を畏敬する心情を育くむ。
 五、誠実と倫を胸に刻み、夢の実現に挑む。



miyuki letter

編 集 福山平成大学広報委員会(学報作成部会)

発 行 福山平成大学

発行日 2012年3月22日

ホームページ <http://www.heisei-u.ac.jp/> 福山平成大学 検索

福 山 平 成 大 学

〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸117-1
 Tel.084-972-5001(代表) Fax.084-972-7771